

KIIのインパクト投資とイノベーションについて

株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ 代表取締役社長 山岸広太郎

2023年5月30日





山岸 広太郎

株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ（KII） 代表取締役社長

2015年12月 KIIの設立と同時に代表取締役社長に就任

2021年5月より慶應義塾の常任理事を兼任

2019年6月より日本ベンチャーキャピタル協会 理事 産学連携部会長

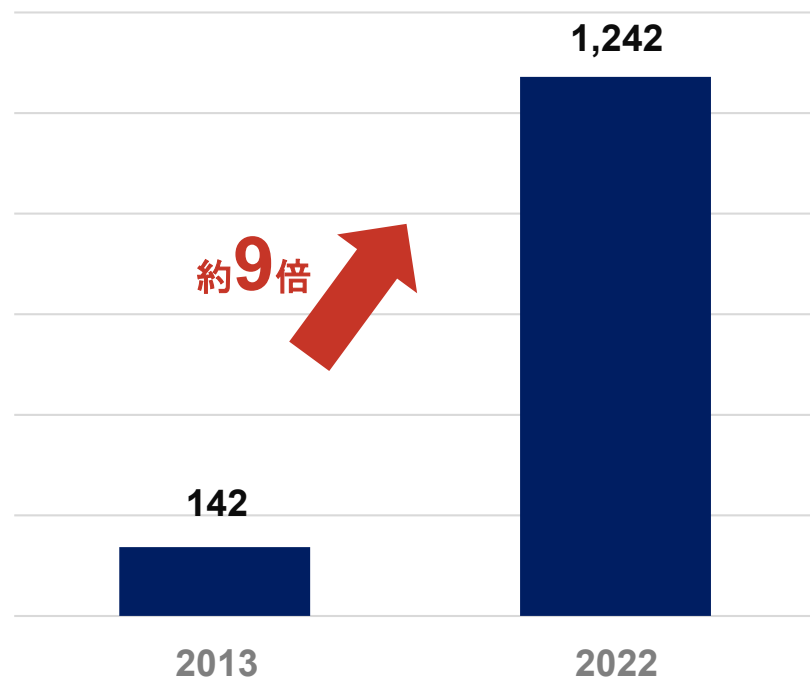
2004年12月 グリー株式会社を創業。副社長として10年以上、事業部門や管理部門などを統括。2008年12月東証マザーズ上場、2010年6月東証一部（現プライム）市場変更。2015年9月より非常勤の取締役

グリー以前は、日経BPの編集記者を経て、CNET Japan 編集長を務め、IT系のメディアの編集、新規事業開発に従事

1999年3月 慶應義塾大学経済学部卒業

大学発スタートアップの潮流

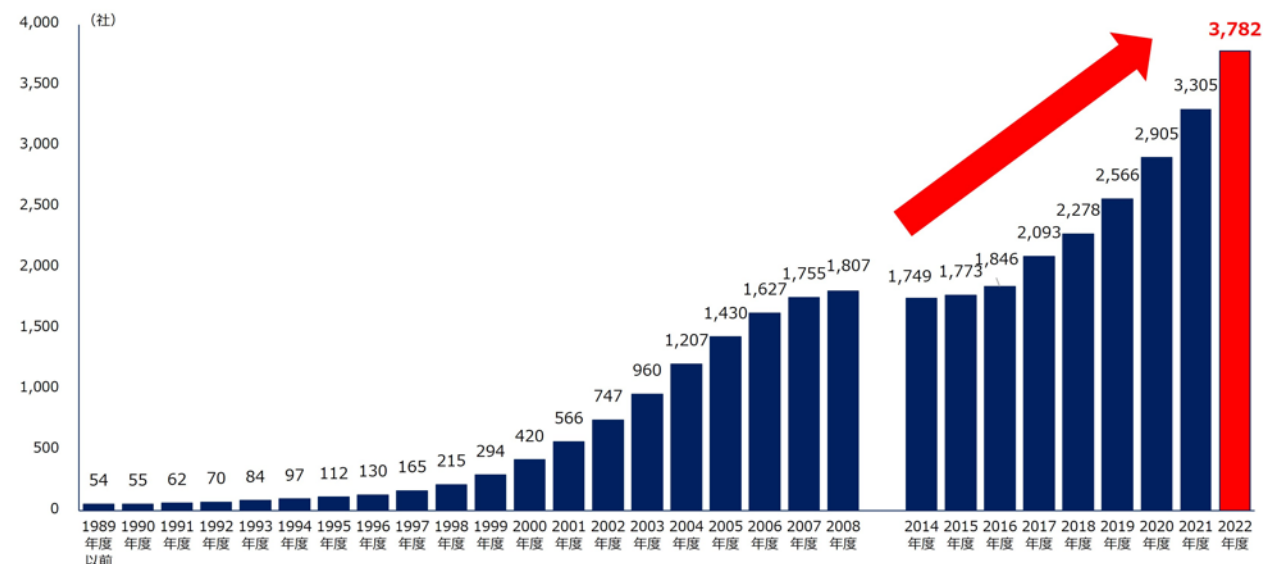
大学発スタートアップへの投資期待は高まり、**国内資金調達総額の14%**を占める。



大学発スタートアップ資金調達総額（単位：億円）

※ INITIAL 2023年1月19日時点
国内資金調達総額8,774億円

大学発スタートアップの**企業数も増加傾向**にあり、**企業数及び増加数ともに過去最高**を記録。



※令和4年度大学発ベンチャー実態等調査（2023年5月、経済産業省産業技術環境局）
<https://www.meti.go.jp/press/2023/05/20230516003/20230516003.html>

大学発スタートアップにおける慶應の位置

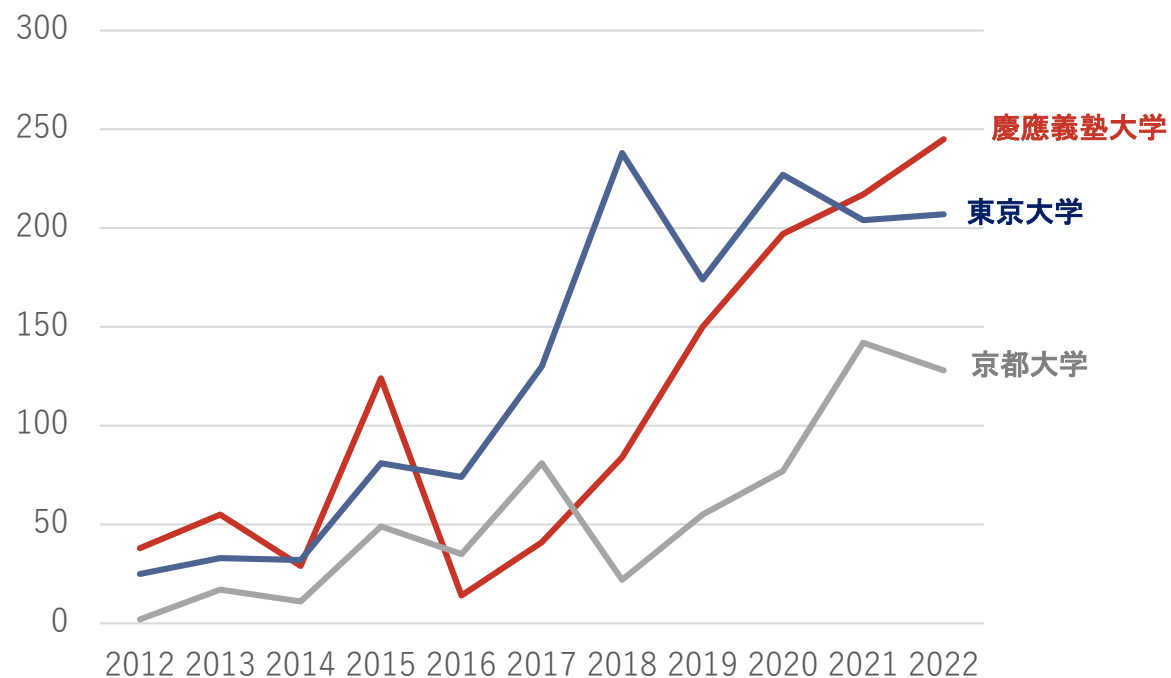
慶應義塾大学発ベンチャー企業数は、2020年度全国10位（90社）から、2022年度**全国3位（236社）**に。

順位 (前年度)	大学名	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2022 年度と 前年度との差
1 (1)	東京大学	323	329	371	+42
2 (2)	京都大学	222	242	267	+25
3 (5)	慶應義塾大学	90	175	236	+61
4 (4)	筑波大学	146	178	217	+39
5 (3)	大阪大学	168	180	191	+11
6 (6)	東北大学	145	157	179	+22
7 (7)	東京理科大学	111	126	151	+25
8 (9)	名古屋大学	109	115	137	+22
9 (11)	早稲田大学	90	100	128	+28
10 (10)	東京工業大学	98	108	119	+11

※令和4年度大学発ベンチャー実態等調査（2023年5月、経済産業省産業技術環境局）

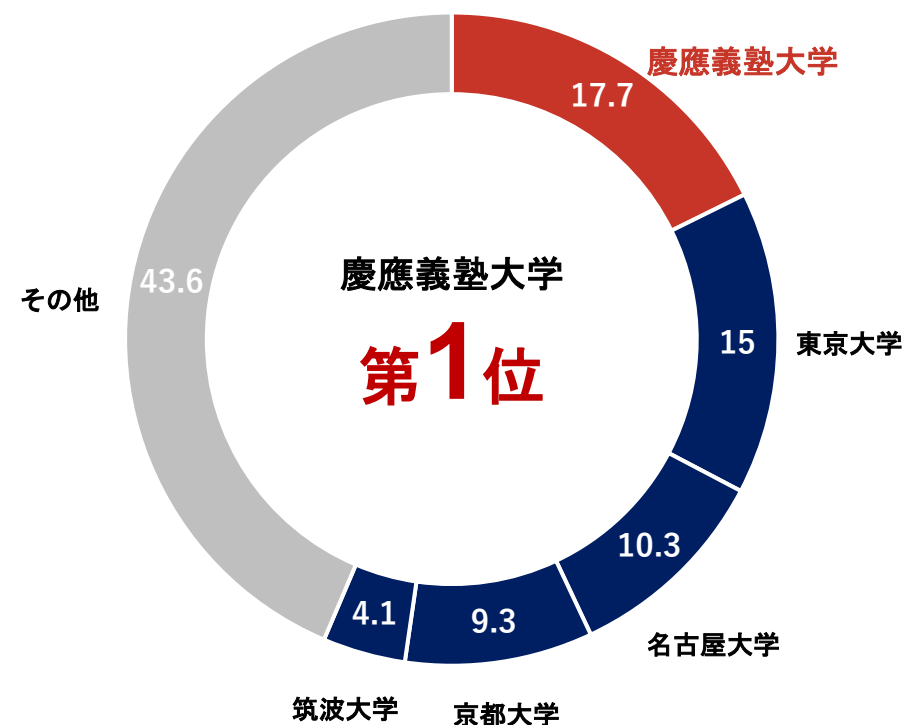
慶應義塾大学発スタートアップの実態

大学発ベンチャーの資金調達額も引き続き堅調に増加。
 慶應義塾大学発ベンチャーの調達額は、近年順調に増加し2022年は**総額245億円**とトップに。



大学発スタートアップ 大学別調達額推移

大学発スタートアップ資金調達総額1,242億円
 ※INITIAL 2023年1月19日時点



大学発スタートアップ 大学別調達額割合

大学発スタートアップ資金調達総額1,242億円
 ※INITIAL 2023年1月19日時点

慶應義塾オフィシャルベンチャーキャピタルとして設立。

商号	株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ（KII）
活動拠点	東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル10F
設立日	2015年12月17日
資本金等	1億円（資本準備金5,000万円含む）
出資比率	株式会社慶應学術事業会 80% 野村ホールディングス株式会社 20%
代表者	代表取締役社長 山岸広太郎

共同事業者



NOMURA

公的支援



NEDO(研究開発型スタートアップ支援事業)
認定ベンチャーキャピタル

スタートアップエコシステム



その研究が、 その発明が、 そのイノベーションが、 社会を変えるまで。

日本の大学には、世界にも誇るべき研究がたくさんある。
その価値ある研究成果が、もっと社会に出ていけば、
もっと世の中を良くすることができるはず。
しかし、大学の研究室から、
社会という荒波の外海へ出るとき、
研究力に加えて、確かな事業力がないと、
いとも簡単に埋没してしまう。
ロマンや夢だけでは、生き残れない世界がある。

研究室で生まれた技術や発明が、
社会を変えるために必要なビジネス・グロースを、
私たちが支援していきたい。
シード期から上場後の経営までを経験してきたノウハウと、
多様なバックグラウンドを持つチームで、
ひとつひとつの事業を、ひとつひとつのやり方で、
ずっとずっと遠くまで（私たちから離れても）、
自走していけるように、支援していきます。
「活用なき学問は、無学に等しい」

かつて福沢諭吉が示した通り、社会に役立ってこそその学問です。
私たち、慶應イノベーション・イニシアティブが、
アカデミアの世界と、ビジネスの橋渡しとなり、
その技術、その発明、そのイノベーションを
社会に実装していきます。

KII運営ファンド

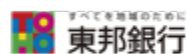
名称	慶應イノベーション・イニシアティブ1号投資事業有限責任組合
運用期間	2016年7月1日から10年（最大2年の延長可能性あり）
規模	45億円

名称	KII2号投資事業有限責任組合
運用期間	2020年1月24日から2029年12月31日（最大2年の延長可能性あり）
規模	103億円

ファンド出資者

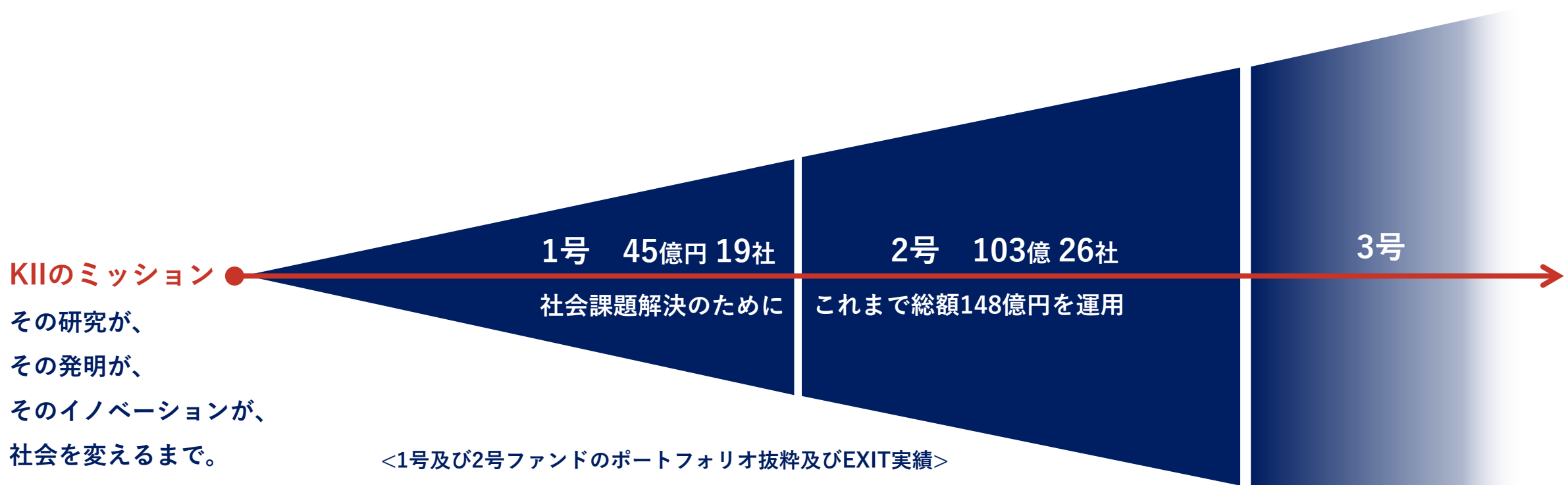


みずほ証券プリンシパルインベストメント



KIIの実績

KIIのミッションのもと、これまで**45社の社会課題解決型スタートアップへの投資及びハンズオン支援**を行っている。
 今後、IMMの導入により、社会を変えるスタートアップへの支援をさらに加速させる。



<1号及び2号ファンドのポートフォリオ抜粋及びEXIT実績>

IPO Kringle Pharma
 IPO Inst. Global Society
 IPO Tsubo Lab
 M&A KNOCK ON THE DOOR
 Synspective
 CureApp
 Heartseed
 MODULUS

IMM (Impact Measurement and Management) の導入

医療・健康領域における投資実績

医学部を保有する強みを活かし、参入障壁の高い創薬領域でも多様なポートフォリオバランスを形成

投資社数	リード出資	社外役員派遣	EXIT
24	16 /24	12 /24	3 /24

※KNOCK ON THE DOOR社のM&A含む

創薬	創薬基盤技術		医療機器	
	組み替えタンパク			
	抗体医薬			
	細胞治療			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">Undisclosed Company</div>
	遺伝子細胞治療			
	マイクロバイオーム			
	エクソソーム			

※2023年4月末時点

デジタル・テクノロジー領域における投資実績

研究開発型ベンチャーを中心に、様々な産業に幅広く投資実行

投資社数 21	リード出資 15 /21	社外役員派遣 10 /21	EXIT 1 /21
-------------------	------------------------	-------------------------	----------------------

<p>宇宙</p>	<p>ロボット</p>	<p>ハードウェア</p>
<p>Sport Tech</p>	<p>人工知能 x DX</p>	<p>情報解析/ビッグデータ</p>
<p>Clean Tech</p>	<p>Wellness Tech</p>	<p>その他 (Ed Tech、コマース等)</p>

KIIの成果

1号ファンドの成果も顕在化、2号ファンド含め、さらに研究成果の社会実装を加速



**NEXTユニコーン
上位30社に
2社がランクイン**





**2020年
最も企業価値が
増加した企業**





投資先が上場





**J-Startup
経産省
J-Startupに選出**



※日経NEXTユニコーン上位30社にランクイン

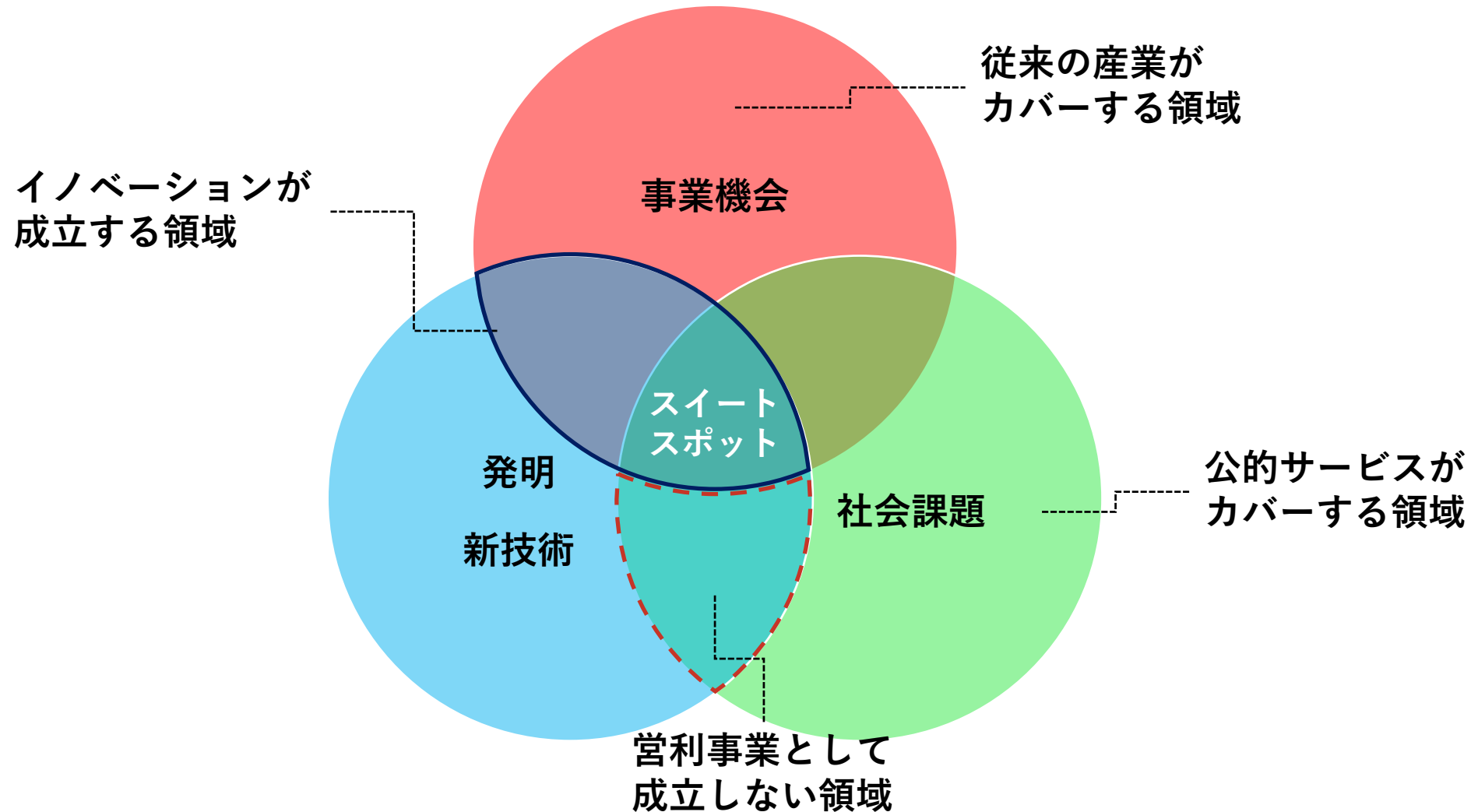
※『日本経済新聞』2020年11月30日付

※2022年12月現在

※2023年4月現在

イノベーションと社会課題解決の関係

社会課題を発明や新技術で解決することで魅力的な事業機会を創造するチャンスがある



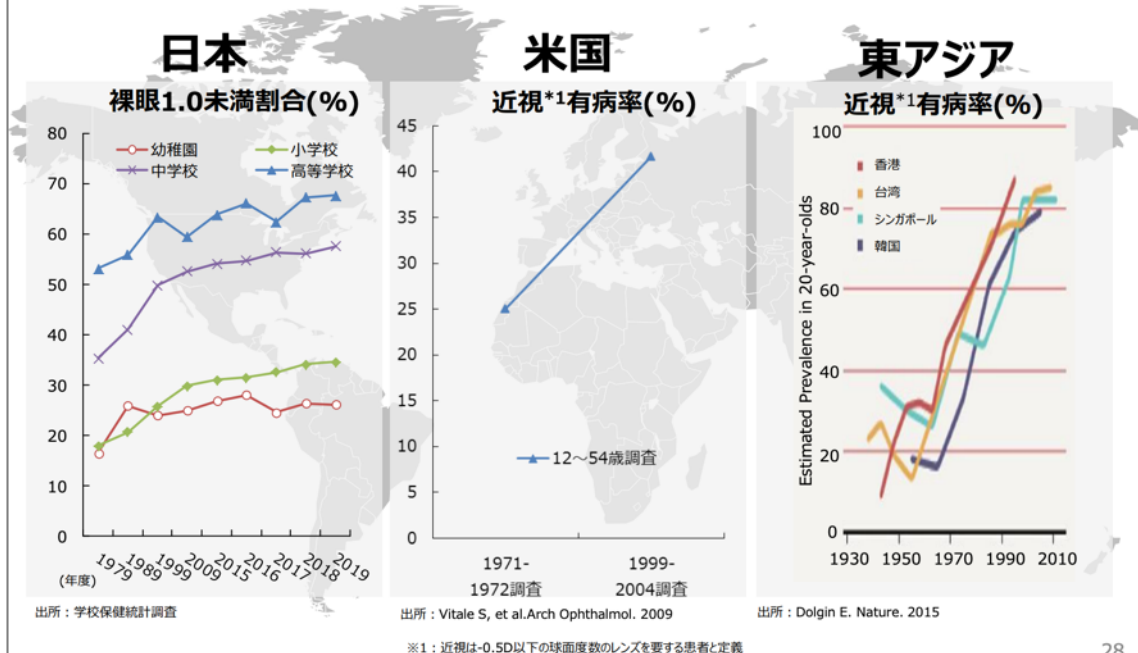
KIIの投資先の事例 - 株式会社坪田ラボ

近視という世界的な社会課題をサイエンスで解決することを目指す

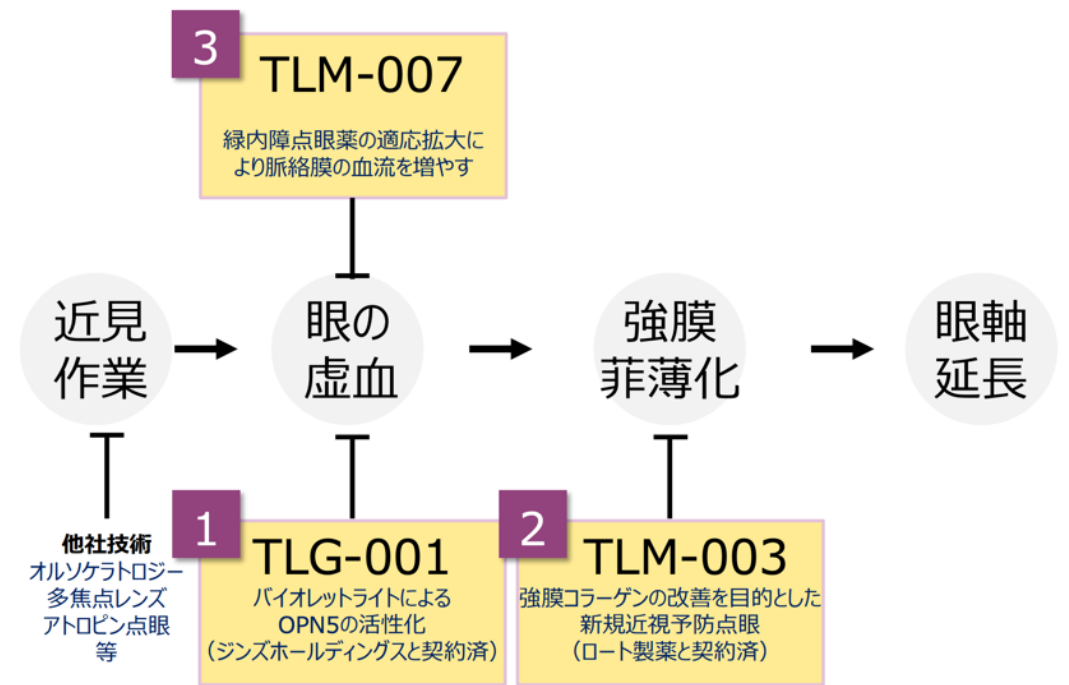
坪田ラボ：事業計画及び成長可能性に関する事項(2022年6月23日)

近視は社会課題 (1)

- 20世紀後半以降、近視の有病率は世界中で上昇している



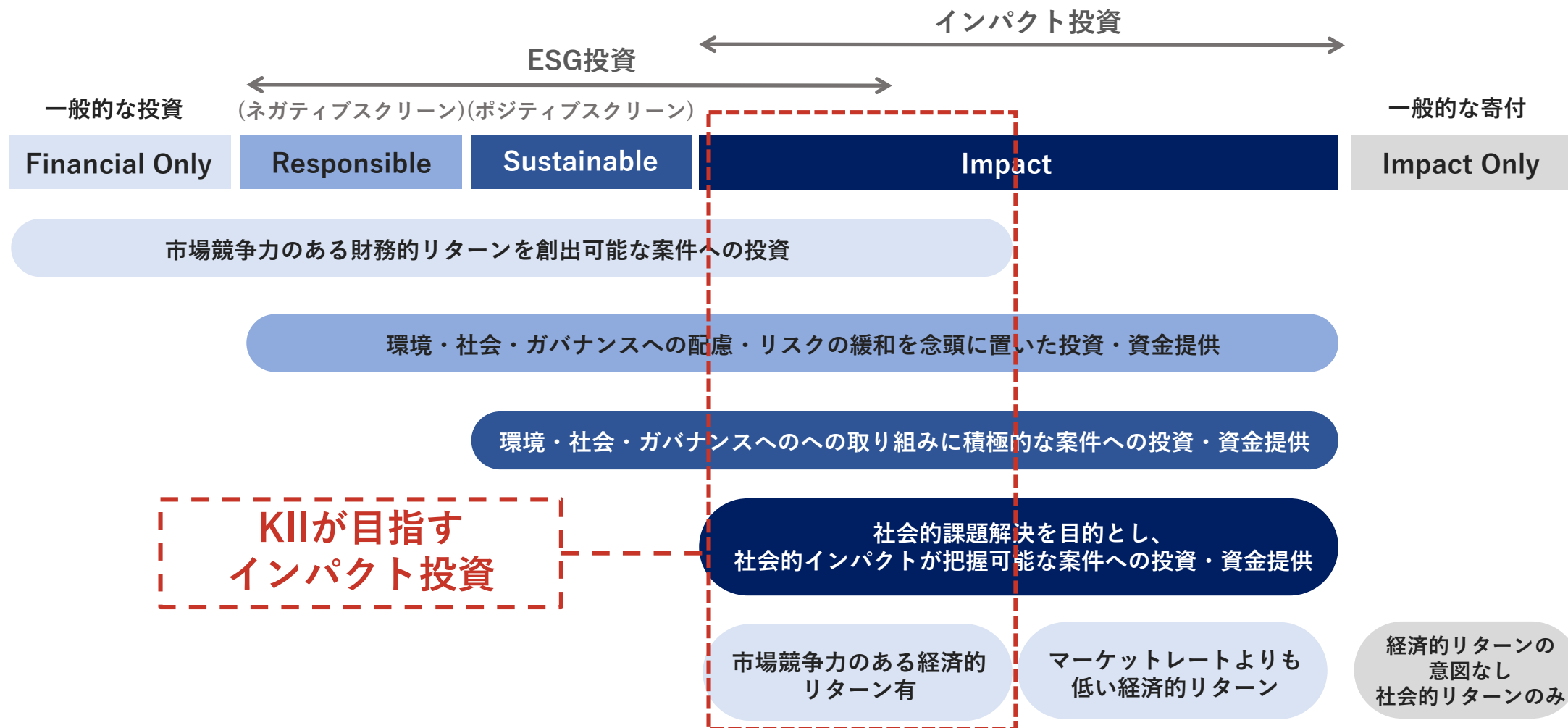
当社の近視抑制へのアプローチ



*Source : <https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS82482/16947250/e037/49cf/8fa9/74c62dbddab6/140120220621583391.pdf>

インパクト投資とは

インパクト投資は、ファイナンシャルリターンの追求のみを原則とした通常の投資と異なり、社会的課題解決を目的として、**社会面・環境面における定量的なインパクトの創出とファイナンシャルリターンの両立**を追求する投資手法。



IMM導入の意義

課題認識

研究成果を活用して社会課題解決を目指すディープテック系のスタートアップにとって、従来よりは、資金調達や、人材採用の環境がよくなってきてはいるが、まだ十分ではない。

チャンス

ESG投資/インパクト投資への関心が高まってきており、IMMの導入によってインパクト投資としての性格を明確にすることで、より多くの資金と人材がディープテック系のスタートアップに流入することが期待できる。

KIIの狙い

KIIとしては、1号、2号ファンドの投資活動の成果にIMMを加えることで、より多くの資金供給と、投資先のバリューアップに貢献することを目指す。

IMM導入における課題

- 投資実行のプロセス全般においてIMMのアクションが必要であり、通常の投資実行と同じ時間軸で実施するには、VC側でのリソースの強化が不可欠。
- ディープテック特有の課題として、スタートアップのミッション/ビジョンがKIIのToCと合致しても、バイオやロボティクス、宇宙、量子コンピュータなど、開発フェーズの長さから、ファンド期間内に定量的なアウトプットが発生しないケースがあるので、測定/レポート方法の開発が必要。

	ソーシング	DD	クロージング	バリュアアップ モニタリング	EXIT
一般的な投資実行に掛かるアクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> • スコープに合致するSUへのインバウンド/アウトバウンド等アプローチ 	<ul style="list-style-type: none"> • 各社基準による、ビジネス/財務/税務/法務等のDD 	<ul style="list-style-type: none"> • 一般的な投資契約 <ul style="list-style-type: none"> - 株式引受契約 - 株主間契約 - 分配合意書等 	<ul style="list-style-type: none"> • 月次/年次等の財務/KPI等モニタリング • 経営支援等 	<ul style="list-style-type: none"> • EXITに掛かる各社基準の(LP等への)レポート
IMMのアクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> • ToCと合致するインパクトスタートアップへのアプローチ 	<ul style="list-style-type: none"> • ToCチェック • ロジックモデル • 5+1次元分析 	<ul style="list-style-type: none"> • IMM遵守条項追加(株主間契約を想定) 	<ul style="list-style-type: none"> • 月次：-- • 半年：-- • 年次：インパクトレポート(インパクトKPIの計測) 	<ul style="list-style-type: none"> • (レスポンシブルEXITレポート等)
IMM実行に掛かる課題	<ul style="list-style-type: none"> • スタートアップ側にインパクト投資への理解が必要 	<ul style="list-style-type: none"> • 通常のDDと同じ時間軸で行う必要あり • 領域/テーマによって定量的な計測が困難な場合あり 	<ul style="list-style-type: none"> • 共同投資家の理解を得る必要あり 	<ul style="list-style-type: none"> • 領域/テーマによって定量的な計測が困難な場合あり • SU側のリソースを必要以上に割けない 	<ul style="list-style-type: none"> • 領域/テーマによって定量的な計測が困難な場合あり